

## 3

**NEC Express5800シリーズ****ソフトウェア編**

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

**添付のDVDについて (206ページ)**

本体に添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに収められているソフトウェアについて紹介します。

**EXPRESSBUILDER (208ページ)**

セットアップツール「EXPRESSBUILDER」について説明します。

**ExpressPicnic (211ページ)**

シームレスセットアップ用パラメータファイルを作成するツール「ExpressPicnic」について説明します。

**本体用バンドルソフトウェア (221ページ)**

本装置にインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。

**管理PC用バンドルソフトウェア (228ページ)**

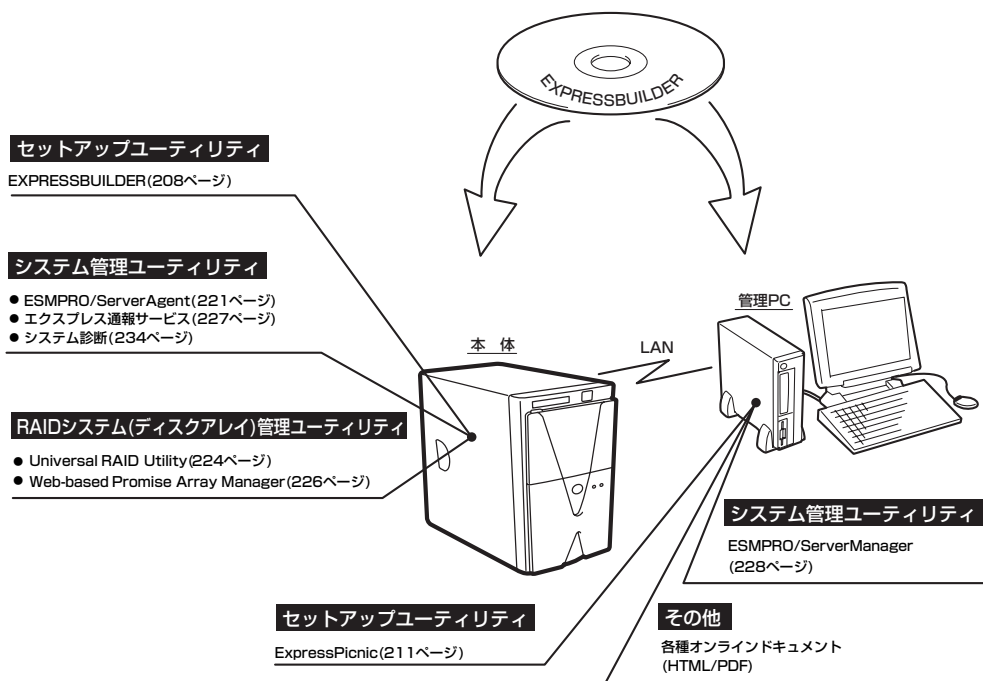
本体を監視・管理するための管理PCにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。

# 添付のDVDについて

添付のEXPRESSBUILDER® DVDには、本装置を容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、本装置の機能をより多く引き出すことができます。



「EXPRESSBUILDER」DVDは、本装置の設定が完了した後も、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用する機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。



## DVD媒体読み込み機能のない管理PCを使用したいとき

EXPRESSBUILDERはDVDにて提供しているため、DVD媒体読み込み機能のないコンピュータでは各種ソフトウェアのインストールをすることができません。DVD媒体読み込み機能のないクライアントマシンへソフトウェアをインストールしたい場合は、次のような手順にて、いったんCD-R等へコピーしてから使用してください。



本手順は、クライアントへソフトウェアをインストールする目的に限り、CD 1枚分のみコピーすることができます。

1. 本装置など、DVD媒体が読み込める装置へ「EXPRESSBUILDER」DVDをセットする。
2. オートランメニューが起動した場合は終了させる。
3. エクスプローラから、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納された以下のファイル・フォルダをハードディスクドライブへコピーする。

¥(ルートフォルダ)

```

|
+--- ¥001 : version.xmlをコピー
    |
    +---- ¥ar_menu 以下すべて
    |
    +---- ¥doc以下すべて
    |
    +---- ¥win以下すべて
  
```

4. 手順3にてコピーしたファイル・フォルダをそのままのフォルダ構造にてCD-Rへコピーする。  
コピーするときは、ルートフォルダを一致させてください。
5. CD-Rへのコピーが完了したら、手順3にてコピーしたハードディスクドライブ上のファイル・フォルダはすべて削除する。
6. 手順4で作成したCD-Rをクライアントマシンの光ディスクドライブへセットする。
7. エクスプローラから、CD内の以下のファイルを実行する。

```

¥001¥ar_menu¥autorun_menu.exe      (32bitエディションの場合)
                                     autorun_menu_x64.exe  (64bitエディションの場合)
  
```

# EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、OSのインストール、装置のメンテナンスなどをするためのソフトウェアです。EXPRESSBUILDERからOSをインストールする際には、インストール対象のハードディスクドライブ（またはRAIDシステムの論理ドライブ1台のみ）だけを接続してセットアップしてください。

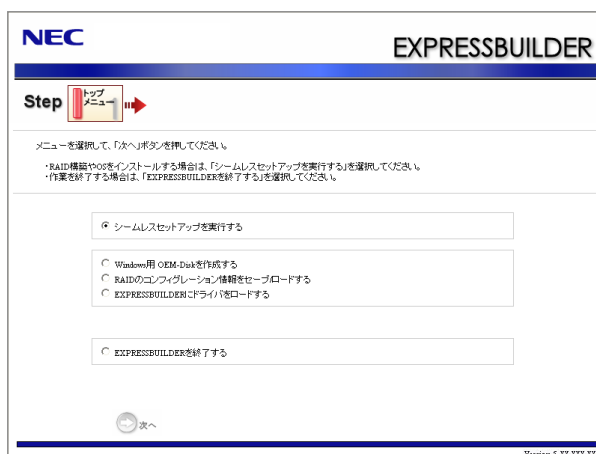
## 各メニューの起動について

「EXPRESSBUILDER」DVDを本装置の光ディスクドライブにセットして起動すると、以下のようなメニューが起動します。

BOOT Selection	
OS installation***default***.....	①
Maintenance Tools.....	②

### ① OS installation

本項目を選択すると、EXPRESSBUILDERトップメニューが表示されます。



- 本ツールは Configuration Toolであり、Windows PE 2.0を使用しています。72時間継続して使用すると自動的に再起動されますのでご注意ください。
- Windows PE 2.0を使用したConfigurationは、Windows Server 2003 (32bit)および Windows Vista Business (32-bit(x86))のみをサポートしており、それ以外の動作は保証しておりません。

このメニューから、OSインストールのための「シームレスセットアップ」(導入編参照)や、以下のような機能をキックすることができます。

- a) Windows用OEM-Diskを作成する  
Windowsのマニュアルセットアップで必要となるOEM-Diskを作成します(導入編-マニュアルセットアップ参照)。
- b) RAIDのコンフィグレーション情報をセーブ/ロードする  
アレイボード上のRAIDコンフィグレーション情報を保存したり、復元したりすることができます。
- c) EXPRESSBUILDERにドライバをロードする  
通常は使用しません。オプション製品を追加した場合に使うときがあります(導入編-応用セットアップ参照)。

## ② Maintenance Tools

本項目を選択すると、表示言語の選択の後、ツールメニューが起動します。

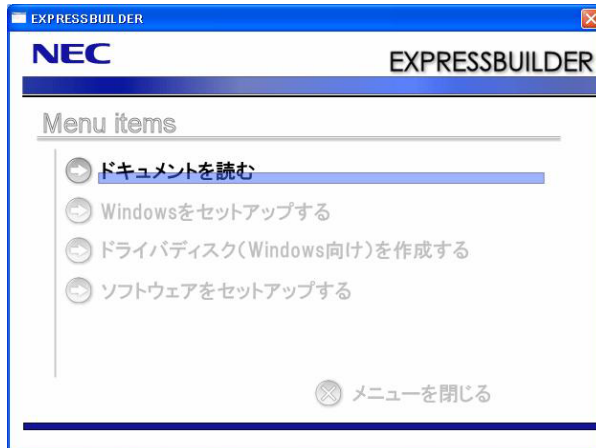


このメニューから、以下のような保守用の機能をキックすることができます。各機能の詳細については、運用・保守編の保守ツールの章を参照してください。

- a) Maintenance Utility  
オフライン保守ユーティリティを起動します。
- b) BIOS/FW Updating  
システムBIOSをアップデートします。
- c) ROM-DOS Startup FD  
ROM-DOS起動FDを作成します。
- d) Test and diagnostics  
システム診断を起動します。

## オートランで起動するメニュー

Windows2000+IE6.0、WindowsXP、Vistaまたは Windows Server 2003 が動作しているコンピュータ上で添付の「EXPRESSBUILDER」DVDをセットすると、オートラン機能により自動的にメニューが起動します。



セットしたタイミングによっては、自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、エクスプローラから「マイコンピュータ」を選択し、セットした光ディスクドライブのアイコンをダブルクリックしてください。

メニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAdobe Readerがインストールされている必要があります。Adobe Readerがインストールされていないときは、あらかじめAdobeシステム社のインターネットサイトよりAdobe Readerをインストールしておいてください。

メニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるショートカットメニューを使用してください。また、一部のメニュー項目は、メニューが動作しているシステム・権限で実行できないとき、グレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行してください。



**重要** DVDを光ディスクドライブから取り出す前に、メニューおよびメニューから起動したオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

# ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで使用する「パラメータファイル」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDER とExpressPicnic で作成したパラメータファイルを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOS のインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「パラメータファイル」を作成して、EXPRESSBUILDER からセットアップすることをお勧めします。

フロッピーディスクをご使用の場合は、別途USB フロッピーディスクドライブをご用意ください。



Windows Vista 32-bit(x86) Edition / Windows XP用の「パラメータファイル」のみ作成できます。Windows Vista 64-bit(x64) Edition / Windows XP x64 Edition用 / Linux用のパラメータファイルは作成できません。



「パラメータファイル」がなくてもWindows Vista 32-bit(x86) Edition / Windows XPをインストールするとはできます。また、「パラメータファイルの入ったFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの途中で作成または修正することもできます。

## パラメータファイルの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「パラメータファイル」を作成します。以下の手順に従ってください。



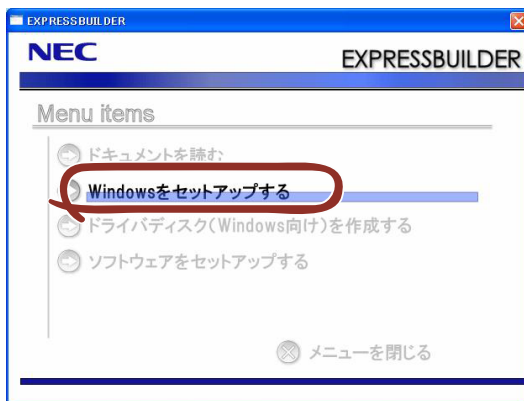
パラメータファイルの作成中は、絶対に[EXPRESSBUILDER]DVDをドライブから取り出さないでください。



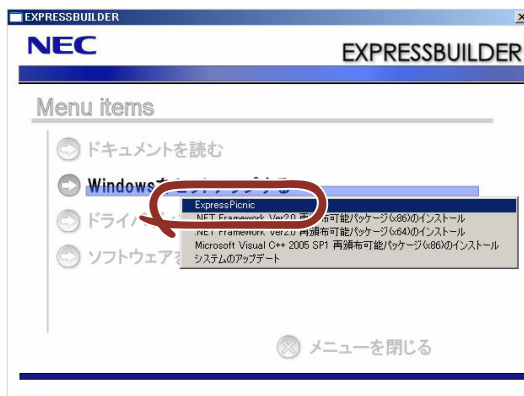
- ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。
- ExpressPicnicは次のOS上で動作します。
  - Windows Server 2003
  - Windows Vista 32bit(x86)
  - Windows XP

1. OSを起動する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットする。

3. 画面上で右クリックするか、[Windowsをセットアップする]を左クリックする。



4. [ExpressPicnic]をクリックする。

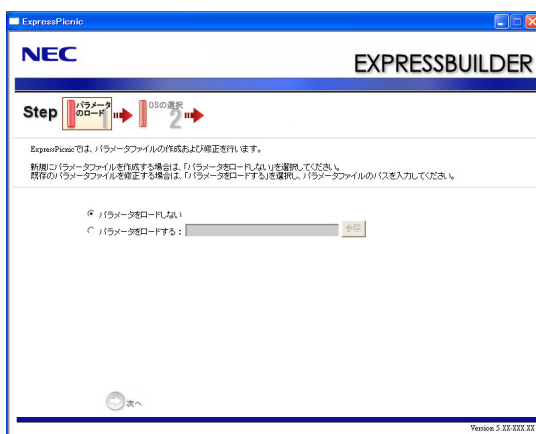


ExpressPicnicウィンドウが表示されます。





5. パラメータのロード画面が表示されたら、[パラメータをロードしない]のチェックボックスがオンになっていることを確認し[次へ]をクリックする。



6. OS を選択する。

[Windows (32bit エディション) をインストールする] を選択して、[次へ] をクリックしてください。



7. RAID の設定をする。

[RAID の設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。





ExpressPicnicでは、[接続されている全物理デバイスの台数]はRAIDコントローラがサポートしている上限値になっています。「論理ドライブを作成する物理デバイスの台数」と「ホットスベアに指定される物理デバイスの台数」の合計が、「対象装置に接続されている全物理デバイスの台数」を超えないように注意してください。

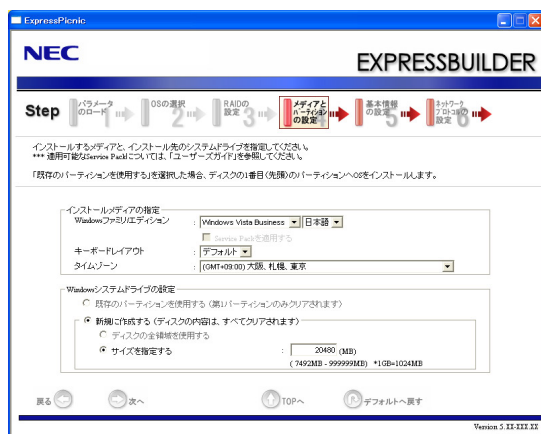


論理ドライブの作成には、同型番の物理デバイスしか使用できません。

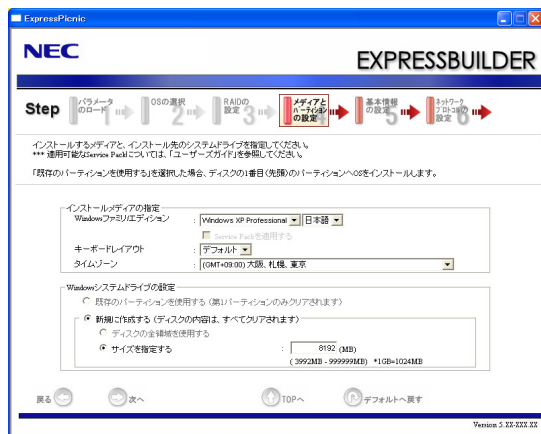
## 8. メディアとパーティションの設定をする。

[メディアとパーティションの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。

<Windows Vista 32-bit(x86) Edition の場合>



<Windows XP Professionalの場合>





- パーティションサイズについて
  - － OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズを指定してください。(62ページ参照)
  - － 接続されているハードディスク以上の容量は指定しないでください。
- 「Windows システムドライブの設定」で「新規に作成する」を選択したとき、ディスクの内容はすべてクリアされますのでご注意ください。
- 「Windows システムドライブの設定」で「既存のパーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、情報が削除されるパーティションを示しています。

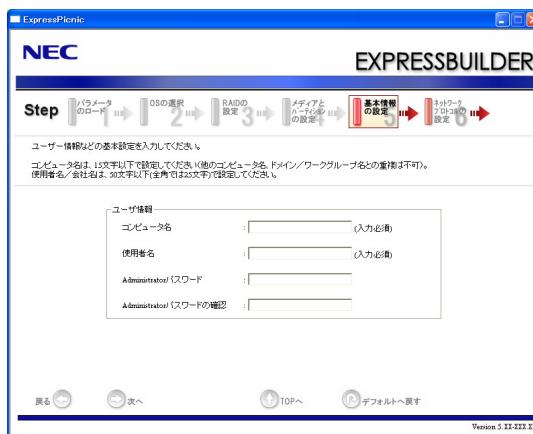
第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション
削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(62ページ参照)。「Windows システムドライブの設定」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。

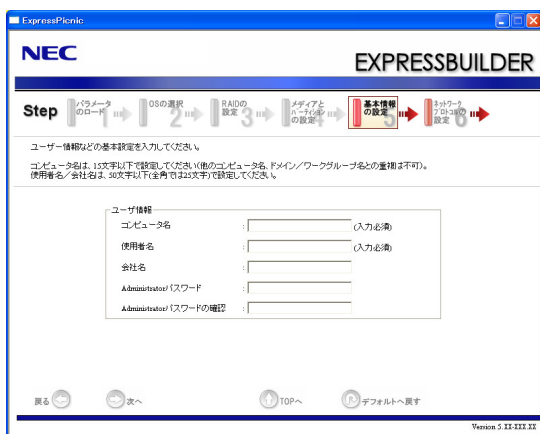
## 9. 基本情報の設定をする。

[基本情報の設定]画面が表示されます。ユーザー情報を入力して[次へ]をクリックしてください。

<Windows Vista 32-bit(x86) Edition の場合>



## &lt;Windows XP Professionalの場合&gt;



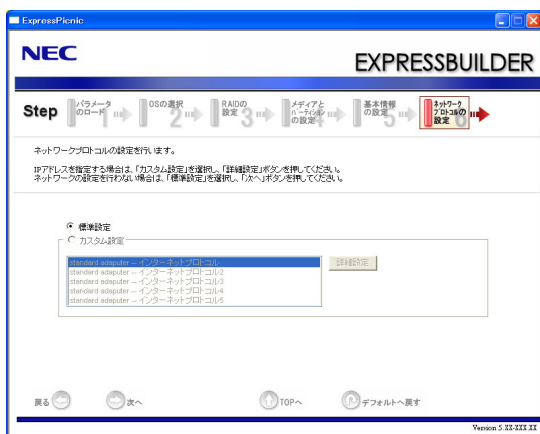
コンピュータ名および使用者名の入力は必須です。



「Administratorパスワード」および「Administratorパスワードの確認」に値を設定していない場合でも「●●●●●●」が表示されます。

## 10. ネットワークプロトコルの設定をする。

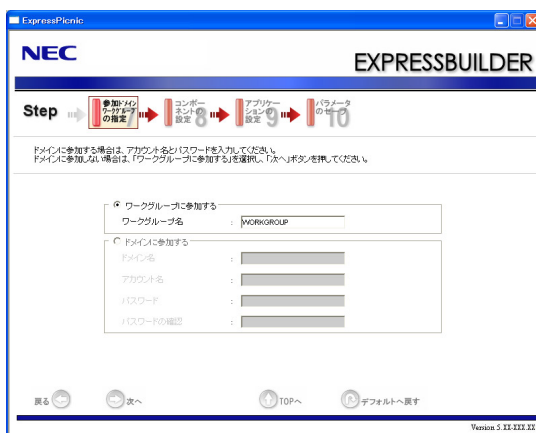
[ネットワークプロトコルの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



カスタム設定での登録順は、LAN ポートの番号と一致しない場合があります。

## 11. 参加ドメイン・ワークグループを指定する。

[参加ドメイン・ワークグループの指定]画面が表示されます。  
設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



Windows Vistaではドメインの指定をおこなっても反映されません。セットアップ完了後にウェルカムセンターから設定してください。

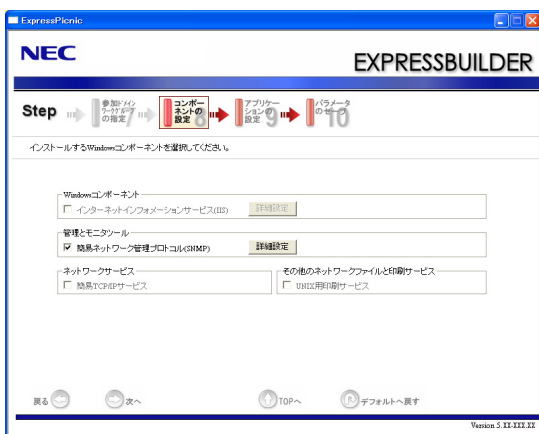
## 12. コンポーネントの設定をする。

[コンポーネントの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。

<Windows Vista 32-bit(x86) Edition の場合>



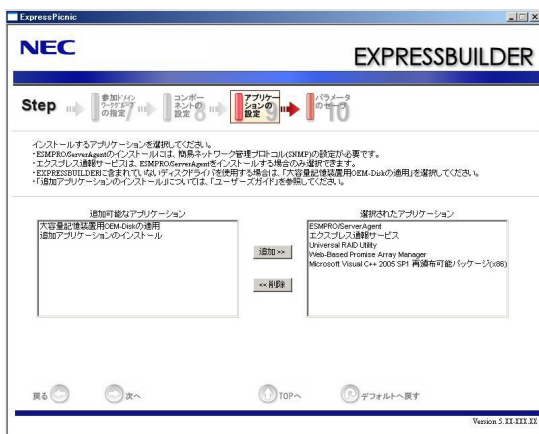
## &lt;Windows XP Professionalの場合&gt;



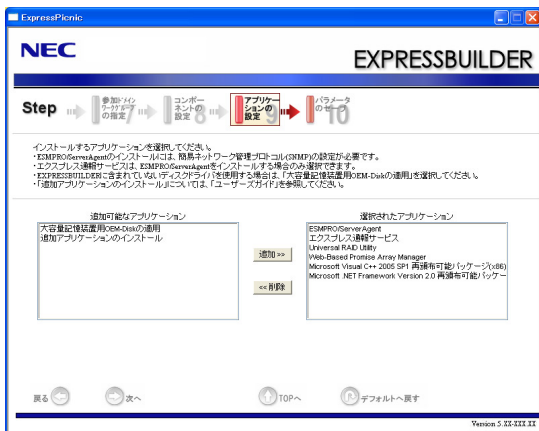
## 13. アプリケーションの設定をする。

[アプリケーションの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なアプリケーションを選択して[次へ]をクリックしてください。

## &lt;Windows Vista 32-bit(x86) Edition の場合&gt;



## &lt;Windows XP Professionalの場合&gt;



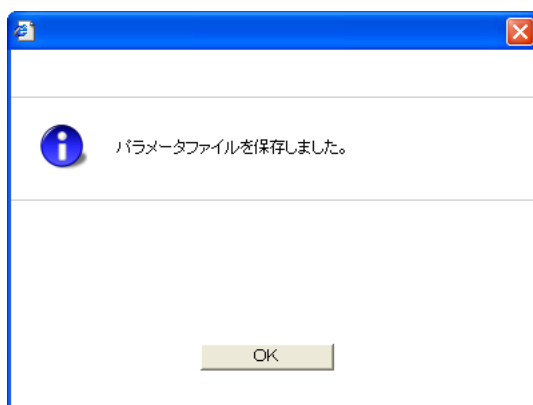
#### 14. パラメータをセーブする。

「パラメータのセーブ」画面が表示されます。

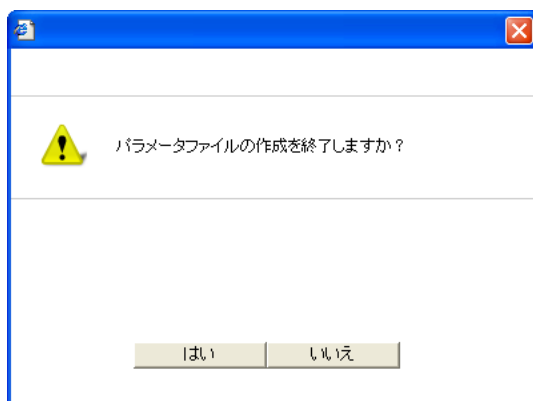
「パラメータをセーブする」を選択し、フォーマット済みフロッピーディスクをセットした後、ファイル名をボックスへ入力し、[次へ]をクリックします。



#### 15. フロッピーディスクに保存する。




「パラメータファイルの入ったFD」が作成できました。  
[はい]をクリックし、パラメータファイルの作成を終了してください。





ヒント

- 既存の情報ファイル（パラメータファイル）を修正する場合は、[パラメータのロード]画面で、パラメータをロードするをクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファイルを修正してください。
- 途中で終了する場合は、画面右上の  をクリックしてください。



# 本体用バンドルソフトウェア

本体にバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

## ESMPRO/ServerAgent (Windows版)

ESMPRO/ServerAgent (Windows版) は本装置にインストールする本体監視用アプリケーションです。

EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。



運用上の注意事項については、添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent (Windows版) インストールガイド」に記載しています。ご覧ください。

### インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgent (Windows版) を動作させるためには対象OSのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

- **ネットワークサービスの設定**

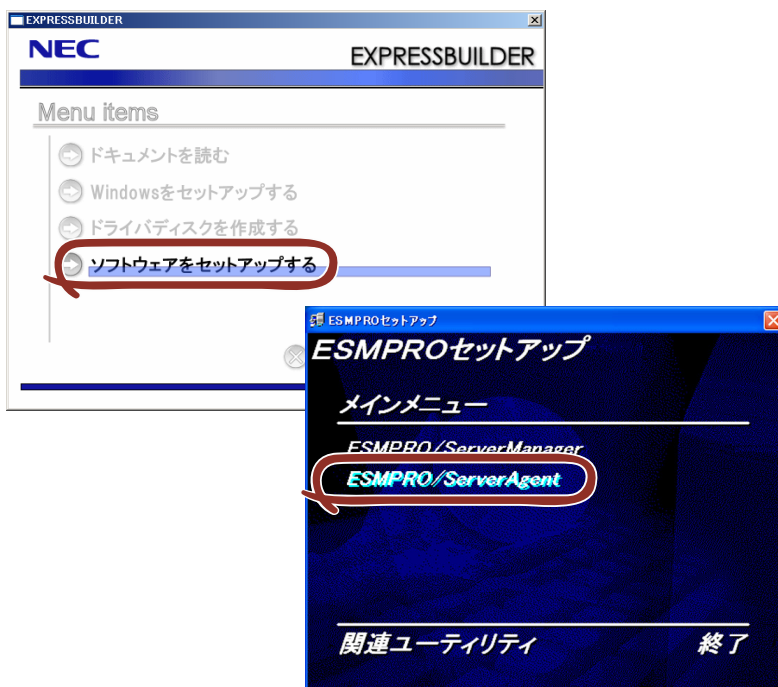
プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

- **SNMPサービスの設定**

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「\*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

## インストール

ESMPRO/ServerAgent (Windows版) のインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」DVDを使用します。本装置のOSが起動した後、Autorunで表示されるメニューから [ソフトウェアのセットアップ] - [ESMPRO] - [ESMPRO/ServerAgent] の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。



アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。

ネットワーク上の光ディスクドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて  
ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

## インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgent (Windows版) をインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. 本装置を再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgent (Windows版) の監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめてからインストールし直してください。

# Universal RAID Utility

Universal RAID Utilityは、以下のRAID コントローラの管理、監視を行うアプリケーションです。

- LSI Embedded MegaRAID

Universal RAID Utilityのインストールおよび操作方法、機能については、添付のEXPRESSBUILDERに収録している「Universal RAID Utility ユーザーズガイド」を参照してください。

## カスタムインストールモデルでのセットアップ

本体装置のモデルにより、あらかじめ Universal RAID Utility がインストールされている場合があります。

## シームレスセットアップを使用したセットアップ

Universal RAID Utilityは、EXPRESSBUILDERに収録している「シームレスセットアップ」を使用してセットアップできます。シームレスセットアップのセットアップするアプリケーションの選択で、[Universal RAID Utility] を選択してください。

## Universal RAID Utilityのセットアッププログラムを使用したセットアップ

[オートランメニュー]でUniversal RAID Utilityのセットアッププログラムを起動できます。  
[オートランメニュー]で [ソフトウェアをセットアップする]、[Universal RAID Utility] をクリックします。

なお、Windows XPの場合、

- Microsoft .NET Framework 2.0
- Microsoft .NET Framework 2.0 日本語 Language Pack
- Microsoft Visual C++ 2005 SP1 ライブラリ

のランタイムコンポーネントが必要です(Windows Vistaは不要です)。  
この3つのソフトウェアは、[オートランメニュー]でインストールできます。

[Microsoft .NET Framework 2.0]と[Microsoft .NET Framework 2.0 日本語 Language Pack] をインストールするには、[オートランメニュー]で [Windowsをセットアップする]、[.NET Framework Ver2.0再配布可能パッケージ(x86)のインストール] (x64の場合、[.NET Framework Ver2.0 再配布可能パッケージ(x64)のインストール])をクリックします。

[Microsoft Visual C++ 2005 SP1 ライブラリのランタイムコンポーネント] をインストールするには、[オートランメニュー]で [Windowsをセットアップする]、[Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再配布可能パッケージ(x86)のインストール] (CPUアーキテクチャに関わらず、(x86)を使用します)をクリックします。

## ネットワーク経由での管理

Universal RAID Utilityは、管理対象RAIDコントローラを搭載するコンピュータをネットワーク経由で管理する機能をサポートしていません。ネットワーク経由で管理するには、Windowsのリモートデスクトップなど、リモートコンソール機能を使用してください。

## イーージーコンフィグレーション機能

Universal RAID Utilityの「イーージーコンフィグレーション」機能は、LSI Embedded MegaRAIDでは使用できません。

# Web-based Promise Array Manager

Web-based Promise Array Manager(以下WebPAMと略記します)は、N8103-101またはN8103-103のRAIDシステムの監視・管理を行うアプリケーションです。WebPAMを使用することで、システム運用中のアレイ保守やイベント監視による通報を行うことができます。

WebPAMのインストールおよび操作方法については、添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「Web-based Promise Array Managerユーザーズガイド」を参照してください。この説明書には運用にあたって注意すべきことも掲載しています。運用開始前に必ずお読みください。

## カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にWebPAMがあらかじめインストールされている場合があります。この場合、この他にInternet Explorerの設定や通報監視についての設定などが必要な場合があります。「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「Web-based Promise Array Managerユーザーズガイド」の付録を参照し、設定してください。

## シームレスセットアップを使ったセットアップ

WebPAMは添付の「EXPRESSBUILDER」に収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここでWebPAMを選択してください。

## 手動インストール(新規インストール)

手動でWebPAMをインストールする場合は「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「Web-based Promise Array Managerユーザーズガイド」を参照してください。

## エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報（予防保守情報含む）を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知することや、障害発生時に迅速に保守を行うことができます。

### セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェアメンテナンスサービスの契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのための契約がお済みでない場合、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

# 管理PC用バンドルソフトウェア

装置をネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアとして「ESMPRO/ServerManager」が「EXPRESSBUILDER」DVDの中に入っています。

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたコンピュータをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、本体にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド」を参照してください。